

講義概要

SYLLABUS

2026 年度

鍼灸科

3

年次

【 専門基礎分野 】

臨床医学各論Ⅲ

病理学Ⅱ

関係法規

社会はき学

医療概論

【 専門分野 】

リハビリテーション医学Ⅱ

東洋医学はり・きゅう実技Ⅱ

臨床実習前施術実技試験

はりきゅう臨床実技

臨床実習Ⅲ

臨床実習Ⅳ

基礎医学総合講座Ⅰ（解剖）

基礎医学総合講座Ⅱ（生理）

基礎医学総合講座Ⅲ

（衛生）

臨床医学総合講座

東洋医学総合講座

総合経絡経穴学

鍼灸理論Ⅱ

東洋医学臨床論Ⅱ



学校法人 エイジエック学園

スポーツ健康医療専門学校

[基本情報]

担当教員	高野 弘仁	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

多くの疾患の成り立ちや特徴を把握して、疾患の鑑別と西洋医学的診断を修得する。そして、はり師きゅう師として卒後の臨床に繋がられる知識を修得する。

[評価方法]

前期/後期国試受験手続認定試験、卒業試験の全ての試験において毎回 60 点以上を取ることを基本に、総合試験、授業の出欠席なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

医学教育出版「病態生理でできた内科学」

[履修の条件・留意点]

2年次同様プリントを中心に授業を進行する。

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	その他の領域(小児科疾患)	11 回	その他の領域(耳鼻咽疾患)
2 回	その他の領域(一般外科)	12 回	その他の領域(精神科疾患)
3 回	その他の領域(麻酔科)	13 回	その他の領域(心療内科)
4 回	その他の領域(麻酔科)	14 回	感染症(感染と病態)
5 回	その他の領域(婦人科疾患)	15 回	感染症(細菌感染症)
6 回	その他の領域(婦人科疾患)	16 回	感染症(細菌感染症)
7 回	その他の領域(皮膚科疾患)	17 回	感染症(ウイルス感染症)
8 回	その他の領域(眼科疾患)	18 回	感染症(性感染症)
9 回	その他の領域(眼科疾患)	19 回	その他の領域(加齢に伴う病態)
10 回	その他の領域(耳鼻咽疾患)	20 回	まとめと解説

担当教員	前川 秀朗		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

「病理学Ⅰ」の再確認とあらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる内容を総合的に学び、はり師きゅう師として卒後の臨床に繋げられる知識を修得することを目標とする。

前期認定試験、後期認定試験、卒業試験の全ての試験において 60%以上の点数を取ることを基本に、授業の参加度も含め単位取得とする。

教科書「病理学概論」、プリント資料

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1回	免疫異常他	11回	腫瘍②
2回	免疫異常他	12回	代謝異常
3回	進行性病変	13回	生活習慣病
4回	退行性病変 循環障害①	14回	先天性異常
5回	循環障害②	15回	病因他
6回	炎症①	16回	感染症他
7回	炎症②	17回	「循環障害」「代謝障害・退行性病変」の要点/理解度確認
8回	免疫異常①	18回	「進行性病変」「炎症」の要点/理解度確認
9回	免疫異常②	19回	「腫瘍」の要点/理解度確認
10回	腫瘍①	20回	「免疫異常」「先天性異常」の要点/理解度確認

2026 年度

[分 野] 専門基礎

/ 保健医療福祉とはり・きゅうの理念

[授業科目]

関 係 法 規

3 学年

[基本情報]

担当教員	宮森 美香	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

はり師きゅう師として活動する際の業務範囲を把握するとともに、禁止行為などを確認する。免許制度の仕組みや実際の手続き等を確認し、免許を受けてから必要な事項に関して学ぶ。また、医療従事者として理解しなければいけない他の医療従事者の職域を理解し修得する。

[評価方法]

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

「関係法規 第 7 版（東洋療法学校協会編）」医歯薬出版 他

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	序論 法とは何か、意義、体系	11 回	「医療従事者の倫理」施術者としての倫理
2 回	「あはき法」目的、免許	12 回	「現代の医学と医療」現代医学の課題
3 回	「あはき法」免許、試験	13 回	「関係法規」医療法、医師法
4 回	「あはき法」業務	14 回	「関係法規」その他医療従事者関係法規
5 回	医療従事者、医療施設	15 回	「関係法規」その他医療従事者関係法規
6 回	国民医療費、医療保険	16 回	「関係法規」薬事法規
7 回	「あはき法」施術所、両罰規定	17 回	「関係法規」衛生関係法規
8 回	「あはき法」指定試験機関	18 回	「関係法規」社会福祉、社会保険関係法規
9 回	公的医療負担、介護保険	19 回	「あはき法」の要点/理解度の確認
10 回	「医療従事者の倫理」医療倫理	20 回	「その他医療法規」の要点/理解度の確認

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

鍼灸理論Ⅱ**3 学年**

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

「鍼灸理論Ⅰ」で学んだことを整理、発展させ、あらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる内容を総合的に学び、はり師きゅう師として必要な知識を修得することを目指す。

[評価方法]

前期認定試験、後期認定試験、卒業試験の全ての試験において 60%以上の点数を取ることを基本に、授業の参加度も含め単位取得とする。

[教科書]

[参考書]

教科書「はりきゅう理論」、プリント資料

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	鍼灸医療事故の事例	11 回	体性感覚温度覚まとめ/理解度確認
2 回	古代九鍼、毫鍼	12 回	体性感覚その他の感覚まとめ
3 回	刺鍼の方式と鍼尖形状	13 回	痛み総論まとめ/理解度確認
4 回	刺鍼の術式	14 回	急性痛まとめ/理解度確認
5 回	灸の材料と特徴	15 回	慢性痛の種類まとめ/理解度確認
6 回	灸術の種類	16 回	慢性痛の仕組みまとめ/理解度確認
7 回	体性感覚総論まとめ/理解度確認	17 回	反射の分類
8 回	体性感覚触覚まとめ/理解度確認	18 回	鍼刺激と反射の仕組みまとめ
9 回	体性感覚痛覚まとめ/理解度確認	19 回	鍼鎮痛の仕組みまとめ
10 回	体性感覚温度覚まとめ/理解度確認	20 回	鍼鎮痛とその他の鎮痛について

2026 年度

[分 野] 専門基礎

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

東洋医学臨床論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	岡野 亜希子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

1 年次、2 年次に学んだ東洋医学の知識を復習すると同時に、授業時間内において学んだ部分に対して小テストなどで知識の確認を行い、総合的な理解を深めることを目標とする。

東洋医学概論で学んだ知識を生かし、症候別・ストレスによってどのような状態があるのか理解すると同時に、どのように治療方針を立て、治療を行っていくかを学ぶ。

[評価方法]

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

教科書「東洋医学臨床論(はりきゅう編)」第 1 版 (東洋療法学校協会編) 医道の日本社

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	総 論	11 回	筋 肉 ③
2 回	病 証 ①	12 回	筋 肉 ④
3 回	病 証 ②	13 回	神 経 ①
4 回	病 証 ③	14 回	神 経 ②
5 回	病 証 ④	15 回	神 経 ③
6 回	病 証 ⑤	16 回	神 経 ④
7 回	六十九難	17 回	適応疾患①
8 回	要 穴	18 回	適応疾患②
9 回	筋 肉 ①	19 回	その他①
10 回	筋 肉 ②	20 回	その他②

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅱ

3 学年

[基本情報]

担当教員	大塩 くるみ		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

はり師きゅう師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学ぶ。現在では広い意味でのリハビリテーションに関わることが多くなってきており、単に疾病に対する治療だけではなく、障害から社会復帰までの知識や技術を身に付けることを目的としている。病院との連携に必要なリハビリテーションに関する知識や用語を理解することを目的とする。

[評価方法]

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

「リハビリテーション医学 第 3 版（東洋療法学校協会編）」医歯薬出版

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	脳卒中のリハ(概説、評価)	11 回	脊髄損傷のリハ(ケアとリスク管理)
2 回	脳卒中のリハ(急性期)	12 回	切断のリハ(原因と分類)
3 回	脳卒中のリハ(回復期リハ)	13 回	切断のリハ(合併症)
4 回	脳卒中のリハ(言語治療、リスク管理)	14 回	切断のリハ(下肢切断の特徴)
5 回	脳卒中のリハ(アフタケア)	15 回	切断のリハ(上肢切断の特徴)
6 回	脳卒中のリハ(リハのゴール)	16 回	切断のリハ(アフタケア)
7 回	脊髄損傷のリハ(概説、機能障害)	17 回	小児リハ(脳性小児麻痺の評価)
8 回	脊髄損傷のリハ(急性期リハ)	18 回	小児リハ(小児発達の評価)
9 回	脊髄損傷のリハ(回復期リハ)	19 回	小児リハ(脳性小児麻痺のリハ)
10 回	脊髄損傷のリハ(社会復帰期リハ)	20 回	小児リハ(その他の小児リハ)

[授業科目]

東 洋 医 学

は り ・ き ゅ う 実 技Ⅱ

3 学 年

[基本情報]

担当教員	原 オサム	単位数	2	時間数	60
実務/資格	豊富な臨床経験鍼を持つ鍼灸院院長が指導、積聚会会長 /はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習

[授業目標]

東洋医学の立場から、どのような病症にも対応できるように、治療法・特殊鍼灸法を学習する。
また、病に対する“考える力”を修得する。

[評価方法]

①実技テスト ②筆記テスト ③出欠席状況 ④授業態度・参加意欲
等による総合評価とする。

[教科書]

はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)

[参考書]

『難経』(各出版社)、『東洋医学講座』第1巻、第10巻(緑書房)
、『カラーアトラス取穴法』(医歯薬出版)

[履修の条件・留意点]

毎回の授業ごとに内容・解説が変わります。
遅刻・欠席があると授業の理解、修得が困難になりがちです。準備・復習と体調管理に注意して、
休まず出席すること。
卒業後の実際の現場や臨床実習に直接関係していく内容なので、つねに復習と技術の鍛錬を計ること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス・2年次の復習、精気について	実習
2回	臨床実習に向けての実技練習	実習
3回	臨床実習に向けての実技練習	実習
4回	臨床実習に向けての実技練習	実習
5回	臨床実習に向けての実技練習	実習
6回	臨床実習に向けての実技練習	実習
7回	臨床実習に向けての実技練習	実習
8回	臨床実習に向けての実技練習	実習
9回	臨床実習に向けての実技練習	実習
10回	はり実技まとめ	試験/実習
11回	きゅう実技まとめ	試験/実習
12回	実技まとめ講評	実習
13回	特殊鍼灸法（接触鍼・散鍼について）・実技	実習
14回	特殊鍼灸法（鋤鍼・円鍼について）	実習
15回	鋤鍼・円鍼の実技	実習
16回	特殊鍼灸法（知熱灸について）	実習
17回	知熱灸の実技	実習
18回	特殊鍼灸法（皮内鍼・円皮鍼について）	実習
19回	皮内鍼・円皮鍼の実技	実習
20回	特殊鍼灸法（長鍼・太鍼について）	実習
21回	長鍼・太鍼の実技	実習
22回	特殊鍼灸法（灸頭鍼について）	実習
23回	灸頭鍼の実技	実習
24回	特殊鍼灸法（刺絡と吸角について）	実習
25回	特殊鍼灸法（刺絡と吸角について）	実習
26回	特殊鍼灸法（吸角の扱い方について）	実習
27回	吸角の実技	実習
28回	特殊鍼灸法・まとめと実技/総合実技実習	実習
29回	特殊鍼灸法・まとめと実技/総合実技実習	実習
30回	特殊鍼灸法・まとめと実技/総合実技実習	実習

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 実 習

[授業科目]

臨床実習前施術実技試験等

3 学年

[基本情報]

担当教員	岡野亜希子/松澤孝司	単位数	2	時間数	30
実務/資格	豊富な臨床経験を持ち、はり師きゅう師の資格を有する教員が医療面接から治療までの流れを指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	---	実 習

[授業目標]

臨床実習Ⅲ及び臨床実習Ⅳにおいては、附属臨床施設において、患者様の受け入れから医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法（現代医学的・東洋医学的な鍼灸を中心に）、診療録作成までほとんどの実践的な治療を経験することとなる。この授業では2年生までで分けて学習してきた部分を一定の時間内で実行する能力を修得することとする。鍼灸基礎実技も一定レベルに到達していることが必須となる。

[評価方法]

実技評価（医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法、鍼灸基礎実技）により評価する。

[教科書]

東洋医学概論・東洋医学臨床論（はりきゅう編）・新版経絡経穴概論＜医道の日本社＞

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1回	ガイダンス	11回	臨床実習 実践
2回	医療面接について	12回	臨床実習 実践
3回	臨床実習 模擬患者(SP)	13回	臨床実習 実技試験
4回	臨床実習 SP: Simulated Patient	14回	臨床実習 実技試験
5回	臨床実習 SP	15回	臨床実習 実技試験
6回	臨床実習 SP		
7回	臨床実習 SP		
8回	臨床実習 SP		
9回	臨床実習 実践		
10回	臨床実習 実践		

[授業科目]

はりきゅう臨床実技

3 学年

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習	

[授業目標]

様々な鍼灸治療法のうち比較的短時間で体の変化があらわれ、その変化を施術者、患者とも確認することができ、他の治療法とも併用できる治療法を学び、鍼灸臨床において役立つ技術と知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

単位実技認定試験において 60 点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

プリント資料	特になし
--------	------

授業計画 ;回数/講義内容			
1 回	体の歪みに対する治療①	13 回	体の歪みに対する治療⑫
2 回	体の歪みに対する治療②	14 回	体の歪みに対する治療⑬
3 回	体の歪みに対する治療③	15 回	体の歪みに対する治療⑭
4 回	体の歪みに対する治療④	16 回	体の歪みに対する治療⑮
5 回	体の歪みに対する治療⑤	17 回	各種治療法①
6 回	体の歪みに対する治療⑥	18 回	各種治療法②
7 回	体の歪みに対する治療⑦	19 回	各種治療法③
8 回	体の歪みに対する治療⑧	20 回	後期試験/まとめと解説
9 回	体の歪みに対する治療⑨		
10 回	前期試験/まとめと解説		
11 回	体の歪みに対する治療⑩		
12 回	体の歪みに対する治療⑪		

[授業科目]

臨 床 実 習 III

3 学年

[基本情報]

担当教員	岡野亜希子/松澤孝司	単位数	1	時間数	46
実務/資格	豊富な臨床経験を持つ、はり師きゅう師の資格を有する教員達が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	---	実 習

[授業目標]

鍼灸臨床の実践を通して医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法(現代医学的・東洋医学的な鍼灸を中心に)、診療録作成などの基本的な臨床能力及び鍼灸院での業務を身につけることを目標とする。

[評価方法]

実技評価およびレポートにより評価する。

[教科書]

[参考書]

東洋医学概論・東洋医学臨床論(はりきゅう編)・新版経絡経穴概論<医道の日本社>	特になし
---	------

授業計画 ;回数/講義内容

1回	臨床実習	13回	臨床実習
2回	臨床実習	14回	臨床実習
3回	臨床実習	15回	臨床実習
4回	臨床実習	16回	臨床実習
5回	臨床実習	17回	臨床実習
6回	臨床実習	18回	臨床実習
7回	臨床実習	19回	臨床実習
8回	臨床実習	20回	臨床実習
9回	臨床実習	21回	臨床実習
10回	臨床実習	22回	臨床実習
11回	臨床実習	23回	臨床実習
12回	臨床実習		

[授業科目]

臨 床 実 習 IV

3 学年

[基本情報]

担当教員	原 オサム/松澤孝司		単位数	1	時間数	45
実務/資格	豊富な治療経験を持ち、はり師・きゅう師の資格を有する教員が附属鍼灸院で診療録の作成から治療までを指導する。					
開講学期	前 期	---	授業形態	---	実 習	

[授業目標]

鍼灸臨床の実践を通して医療面接、理学検査、鑑別診断、病態把握、鍼灸治療法(現代医学的・東洋医学的な鍼灸を中心に)、診療録作成などの基本的な臨床能力及び鍼灸院での業務を身につけることを目標とする。

[評価方法]

実技評価およびレポートにより評価する。

[教科書]

[参考書]

東洋医学概論・東洋医学臨床論(はりきゅう編)・新版経絡経穴概論<医道の日本社>	特になし
---	------

授業計画 ;回数/講義内容

1回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	13回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
2回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	14回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
3回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	15回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
4回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	16回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
5回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	17回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
6回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	18回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
7回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	19回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
8回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	20回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
9回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	21回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
10回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	22回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
11回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)	23回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)
12回	臨床実習(附属鍼灸院で実施)		

[授業科目]

基礎医学総合講座Ⅰ

3 学年

[基本情報]

担当教員	木原 和彦		単位数	3	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師・きゅう師、柔道整復師、 大学で講師の経験を持つ教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	――	

[授業目標]

基礎医学総合講座Ⅰでは、解剖生理学の人体の基本構造および構成要素について、再確認するだけでなく、その構造や形態が形成される過程に存在する法則について発生学的な知識を交えながら臨床医学及び東洋医学につながるよう理解を深めることを目的とする。

[評価方法]

国試受験認定試験と卒業試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

[教科書]

東洋療法学校協会編教科書 『 解剖生理学 』

[参考書]

[履修の条件・留意点]

1. 平素の授業態度(机上の飲食物、携帯使用、着信音)により単位未修得となることがあるので留意すること。
2. 遅刻又は欠席で、減点されるので留意のこと

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	細胞・組織の要点	講義
2回	器官・外皮の要点	講義
3回	骨格器（総論・脊柱）	講義
4回	骨格器（上肢）	講義
5回	骨格器（下肢）	講義
6回	骨格器（頭蓋）	講義
7回	筋系（頭頸部・体幹）	講義
8回	筋系（上肢）	講義
9回	筋系（下肢）	講義
10回	血管・心臓の要点	講義
11回	動脈（頭頸部・上肢）の要点	講義
12回	動脈（胸腹部・下肢）の要点	講義
13回	静脈の要点	講義
14回	リンパ系、胎児循環の要点	講義
15回	概説、骨、筋、脈管 到達度確認	講義
16回	鼻腔・喉頭の要点	講義
17回	気管・肺の要点	講義
18回	消化器系（口腔～胃）の要点	講義
19回	消化器系（小腸～大腸）の要点	講義
20回	消化腺（肝臓・膵臓）の要点	講義
21回	腎臓・尿路の要点	講義
22回	生殖器系の要点	講義
23回	神経系（脳）の要点	講義
24回	脳室系・伝導路の要点	講義
25回	脳神経の要点	講義
26回	脊髄神経の要点	講義
27回	自律神経の要点	講義
28回	感覚器系の要点	講義
29回	視覚器の要点	講義
30回	聴覚平衡器の要点	講義

担当教員	宮森 美香		単位数	3	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/はり師・きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	――	

- ・1,2年次に学習した生理学の総復習を行うことにより、個々の理解不足分野を確認することができる。
- ・正常な生体のメカニズムを理解することで生理学の知識を確実なものとし、疾病の理解へつなげることができる。
- ・生理学を体系的に学ぶことで国家試験にも対応できるようになる。
- ・国家試験では通過点として、臨床における生理学的判断を可能とする知識を習得することができる。

国試受験認定試験と卒業試験において平均 60 点以上を取ることを基本に授業の参加度なども参考とし、総合評価により単位取得とする。

東洋療法学校協会編教科書 『解剖生理学』

『病気がみえるシリーズ(全 15 巻)』(メディックメディア)

1. 講義要綱を確認し、教科書を読むなど予習をしたうえで授業を受けることが大切です。
2. 生理学ではポイントごとに覚えることも大切ですが、単元を超えた複合的な考え方も大切となります。一度単元が終わったら終了ではありません、そのことを意識しながら授業を受けること。
3. 授業の進行においては、板書とスライドを臨機応変に用います。各自必要なことはメモし、まとめること。
4. 各章が終了した次の時間には授業初めに小テストを行います。理解していない問題は特に復習に時間をかけること、分からないことがあれば質問しましょう。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス/第1章 人体の構成（細胞）	講義
2回	第1章 人体の構成（体液と恒常性）	講義
3回	第1章 人体の構成（物質の移動）	講義
4回	第6章 血液と免疫（血液：血漿の機能）	講義
5回	第6章 血液と免疫（血液：赤血球・血小板）	講義
6回	第6章 血液と免疫（生体防御、血液型）	講義
7回	第5章 循環系（心臓の機能・刺激伝導系・心電図）	講義
8回	第5章 循環系（心周期、循環の調節）	講義
9回	第7章 呼吸器系（呼吸のメカニズム）	講義
10回	第7章 呼吸器系（呼吸の調節）	講義
11回	第8章 消化器系と代謝・栄養（消化液の働きと調節）	講義
12回	第8章 消化器系と代謝・栄養（消化管の動きと調節）	講義
13回	第8章 消化器系と代謝・栄養（吸収について）	講義
14回	第8章 消化器系と代謝・栄養（五大栄養素の働き）	講義
15回	第8章 消化器系と代謝・栄養（栄養素とエネルギー代謝）	講義
16回	第10章 内分泌系と体温（体温調節と発汗）	講義
17回	第10章 内分泌系と体温（ホルモンの特徴）	講義
18回	第10章 内分泌系と体温（各ホルモンの働き）	講義
19回	第10章 内分泌系と体温（各ホルモンの働き）	講義
20回	第1章、第5～10章（第9章除く）まとめと解説	講義
21回	第1章、第5～10章（第9章除く）まとめと解説	講義
22回	第11章 生殖・身体の変齢変化（生殖器の機能）	講義
23回	第3章 神経系（ニューロンの構造と働き、活動電位）	講義
24回	第1章～第11章まとめと解説	講義
25回	第3章 神経系（中枢神経系：脊髄）	講義
26回	第3章 神経系（末梢神経系：自律神経）	講義
27回	第3章 神経系（骨格筋の神経支配）	講義
28回	第4章 感覚器系（一般感覚）	講義
29回	第4章 感覚器系（特殊感覚）	講義
30回	第1章～第11章まとめと解説	講義

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 総合領域

[授業科目]

基礎医学総合講座 Ⅲ

3 学年

[基本情報]

担当教員	宮森 美香	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

衛生学の第 10 章「消毒法」を中心に最終章の第 12 章まで修得したのち、国家試験問題や類似問題を解き、重要事項を修得する。

[評価方法]

後期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において 60 点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

「衛生学・公衆衛生学 第 2 版（東洋療法学校協会編）」医歯薬出版

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	消毒法(定義、物理的消毒法)	11 回	「保健統計」(おもな保健統計)
2 回	消毒法(化学的消毒法)	12 回	衛生学・問題演習
3 回	消毒法(消毒の実際、医療廃棄物)	13 回	衛生学・問題演習
4 回	消毒法(消毒の実際、医療廃棄物)	14 回	衛生学・問題演習
5 回	「疫学」(特徴と意義、分類)	15 回	衛生学・問題演習
6 回	「疫学」(疾病の頻度の測定、症例対照研究)	16 回	衛生学・問題演習
7 回	「疫学」(コホート研究、実験疫学)	17 回	衛生学・問題演習
8 回	「保健統計」(意義、人エピラミッド)	18 回	衛生学・問題演習
9 回	「保健統計」(意義、人エピラミッド)	19 回	衛生学・問題演習
10 回	「保健統計」(おもな保健統計)	20 回	衛生学・問題演習

担当教員	高野 弘仁	単位数	3	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/ はり師・きゅう師、柔道整復師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	———

1. 多くの疾患の成り立ちや特徴を把握して、疾患の鑑別と西洋医学的診断を修得する。
2. はり師きゅう師として卒後の臨床に繋げられる知識を修得する。

国試受験認定試験と卒業試験において平均 60 点以上を取ることを基本に授業の参加度なども参考とし、総合評価により単位取得とする。

東洋療法学校協会編教科書 『臨床医学各論』・『臨床医学総論』

『病気がみえるシリーズ(全 15 巻)』(メディックメディア)

1. 2年次同様プリントを中心に授業を進行する。
2. 平素の授業態度(机上の飲食物、携帯使用、着信音)により単位未修得となることがあるので留意すること。
3. 遅刻又は欠席で、減点されるので留意のこと。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	臨床医学各論まとめ1 (消化器疾患)	講義
2回	臨床医学各論まとめ1 (消化器疾患)	講義
3回	臨床医学各論まとめ2 (肝・胆・膵臓疾患)	講義
4回	臨床医学各論まとめ2 (肝・胆・膵臓疾患)	講義
5回	臨床医学各論まとめ3 (呼吸器疾患)	講義
6回	臨床医学各論まとめ3 (呼吸器疾患)	講義
7回	臨床医学各論まとめ4 (腎臓・尿路疾患)	講義
8回	臨床医学各論まとめ4 (腎臓・尿路疾患)	講義
9回	臨床医学各論まとめ5 (代謝・栄養疾患)	講義
10回	臨床医学各論まとめ6 (内分泌疾患)	講義
11回	臨床医学各論まとめ6 (内分泌疾患)	講義
12回	臨床医学各論まとめ7 (整形外科疾患)	講義
13回	臨床医学各論まとめ7 (整形外科疾患)	講義
14回	臨床医学各論まとめ8 (循環器疾患)	講義
15回	臨床医学各論まとめ8 (循環器疾患)	講義
16回	臨床医学各論まとめ9 (血液・造血疾患)	講義
17回	臨床医学各論まとめ9 (血液・造血疾患)	講義
18回	臨床医学各論まとめ10 (神経疾患)	講義
19回	臨床医学各論まとめ10 (神経疾患)	講義
20回	臨床医学各論まとめ11 (膠原病)	講義
21回	臨床医学各論まとめ12 (その他の領域)	講義
22回	臨床医学各論まとめ13 (感染症疾患)	講義
23回	臨床医学総論・各論 総まとめ1	講義
24回	臨床医学総論・各論 総まとめ2	講義
25回	臨床医学総論・各論 総まとめ3	講義
26回	臨床医学総論・各論 総まとめ4	講義
27回	臨床医学総論・各論 総まとめ5	講義
28回	臨床医学総論・各論 総まとめ6	講義
29回	臨床医学総論・各論 総まとめ7	講義
30回	臨床医学総論・各論 総まとめ8	講義

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 総合領域

[授業科目]

東洋医学総合講座

3 学年

[基本情報]

	岡野 亜希子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

1 年次、2 年次に学んだ東洋医学の知識の再確認するために、東洋医学概論を教科書を中心としながら学んでいく。授業時間内において学んだ部分に対して小テストなどで知識の確認を行い、総合的な理解を深めることを目標とする。

[評価方法]

前期/後期国試受験手続認定試験、卒業試験の全ての試験において毎回 60 点以上を取ることを基本に、総合試験、授業の出欠席なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

東洋療法学校協会編 「東洋医学概論」、「東洋医学臨床論」

[参考書]

必要な書籍を随時紹介していく。

[履修の条件・留意点]

プリントを中心に授業を進行する。

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	気・陰陽・五行説	11 回	診断論
2 回	気の種類と作用	12 回	診断論
3 回	蔵 象	13 回	八綱弁証
4 回	蔵 象	14 回	気血津液弁証
5 回	蔵 象	15 回	気血津液弁証
6 回	蔵 象	16 回	臓腑弁証
7 回	蔵 象	17 回	経絡病証・奇経八脈病証
8 回	奇恒の腑	18 回	経絡病証・奇経八脈病証
9 回	病 因	19 回	古代九鍼・刺法
10 回	診断論	20 回	禁忌・補瀉

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 臨床はり学・臨床きゅう学

[授業科目]

総合経絡経穴学

3学年

[基本情報]

担当教員	石井 彩	単位数	3	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/ はり師・きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	———

[授業目標]

経絡経穴概論の総復習を行う。1年次経絡ごとに名称・部位を学習し、2年次は効能や筋肉などを学習した総復習を3年次では行う。部位ごとに分けて、取り方・筋肉・神経・所属など様々な角度からもう一度経穴を学ぶ。

[評価方法]

単位認定試験を取ることを基本に、国試受験認定試験、卒業試験の成績と授業の参加度をあわせた総合評価を行う。

[教科書]

経絡経穴概論、東洋医学概論、東洋医学臨床論

[参考書]

随時紹介します。

[履修の条件・留意点]

1. この時間では、経絡ごとではなく、部位ごとに授業を進めていきます。
2. 授業の進行においては、①授業内プリント、②問題プリントと2種類配布します。
各ファイルを用意して、まとめておくこと。
3. 毎回の最初の15分を使って、復習問題にチャレンジしてもらいます。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス/流注	講義
2回	骨度法	講義
3回	要穴	講義
4回	要穴	講義
5回	背部（経穴）	講義
6回	背部（筋肉）	講義
7回	肩	講義
8回	胸腹部（経穴）	講義
9回	胸腹部（筋肉）	講義
10回	頸	講義
11回	前腕部	講義
12回	上腕部	講義
13回	上肢（筋肉）	講義
14回	下腿部	講義
15回	大腿部	講義
16回	下肢（筋肉）	講義
17回	頭部・	講義
18回	頭部・	講義
19回	奇穴	講義
20回	まとめと解説	講義
21回	東医臨 頸肩腕症候群	講義
22回	東医臨 胸郭出口症候群	講義
23回	東医臨 上肢絞扼神経障害と神経麻痺	講義
24回	東医臨 肩こり、背部筋肉	講義
25回	東医臨 肩関節障害	講義
26回	東医臨 その他肩関節痛を起こす疾患	講義
27回	東医臨 上腕骨外側上顆炎，上腕骨内側上顆炎	講義
28回	東医臨 腰下肢疾患	講義
29回	東医臨 下肢絞扼神経障害と神経麻痺	講義
30回	東医臨 スポーツ障害	講義

[基本情報]

担当教員	宮森 美香	単位数	1	時間数	20
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

「第2章 現代の医学と医療」を中心に、卒後に必要と思われる介護保険についても詳細を追求して理解を深めてもらうことを授業目標とする。

[評価方法]

国試受験認定試験と前期末試験、卒業試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

[教科書]

医歯薬出版「医療概論」

[参考書]

[履修の条件・留意点]

真摯な授業態度で受講して下さい。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	医療従事者と医療施設		
2回	医療従事者と医療施設		
3回	医療と医療経済		
4回	医療と医療経済		
5回	医療保険・介護保険概説		
6回	公的医療負担		
7回	医療倫理		
8回	医療倫理		
9回	介護保険詳説		
10回	まとめと解説		

[授業科目]

社 会 は き 学

3 学年

[基本情報]

担当教員	宮森 美香		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

・第1回、第2回は租税に関する意義、役割、機能、しくみ等の租税制度を知るとともに申告納税制度の理念や納税者の権利・義務を理解する。後半は、社会の健康課題に対して、鍼灸などの東洋療法を活用し、いかに貢献すべきかを学ぶ。

[評価方法]

後期末試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

[教科書]

医道の日本社「社会あはき学」

[履修の条件・留意点]

講義要綱を確認し、教科書を読むなど予習をしたうえで授業を受けることが大切です。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	税金とは	11回	神経系（運動反射）
2回	施術所経営に関わる税金	12回	第1章 総論、第2章 あはき師を取り巻く環境
3回	泌尿器系（腎臓の働き、尿の生成）	13回	第3章 地域で期待されるあはき師の業務
4回	泌尿器系（蓄尿と排尿）	14回	第4章 現在社会におけるあはき師の役割
5回	生殖・身体の変齢変化（加齢変化）	15回	第4章 現在社会におけるあはき師の役割
6回	神経系（中枢神経系：大脳）	16回	第5章 施術所の経営展開
7回	神経系（中枢神経系：間脳・小脳・脳幹）	17回	第1章～第2章 まとめと解説
8回	神経系（末梢神経系：脊髄神経・脳神経）	18回	第3章 まとめと解説
9回	運動器（各筋の特徴、骨格筋の収縮）	19回	第4章 まとめと解説
10回	神経系（運動反射）	20回	第5章 まとめと解説